

China Print 2017 (2017 北京国際印刷技術展)

チャイナプリント（北京国際印刷技術展示会）は、1984年から4年ごとに開催、中国における最初の印刷展示会で、現在中国では最大の印刷専門展でもある。チャイナプリントは1988年に国際博覧聯盟（UFI）に認められ、UFI初の中国会員になった。中国印刷産業の高速かつ安定した発展に伴い、チャイナプリントは成長を遂げてきた。チャイナプリント2017は、5月9日～13日の5日間、中国・北京の中国国際展覧センターで開催され、205,039人（主催者発表）が来場した。

シトールシステム社



マリエン社長



シトール社のブース

シトールアルティメット



展示されたシトールテープ。一番上
がシトールアルティメット



展示で使用された3Dレンズ。QR
コードをスマホで読みとり製品情
報を立体で紹介

シトールアルティメットは、新開発の樹脂素材で、面盤転写後の面取りも容易にできる素材。二層樹脂押出成形による2層構造は、下層は本体ベースに適した安定性があり、上層は弾力性と耐摩耗性にも優れ、抜き工程の最初の1枚から最後まで、変わらない高品質な折れ筋を実現

有功社シトール貿易(株)谷口有三社長、本社（東京・北区）が代理店を務める、ドイツ・シトールシステム社（以下シトール社）が出品。チャイナプリントが初出品の次世代の平盤抜用跳ね出しゴム『シトールジェクトF』や、ドルツパで発表し注目を集めた、究極のシトールテープ『シトールアルティメット』、CAD面板の溝精度を数値でとらえる非接触光学測定機『シトールカウンターコントロール』などを展示紹介した。

世界の印刷業で今や第3の市場となった中国、連日多くの来場者が訪れた。チャイナプリント終了後、有功社シトール貿易の谷口社長を訪ね、会期中シトール社ブースを担

当した松浦氏、神崎氏も同席し、会場の様子や、チャイナプリントの印象などを聞いた。

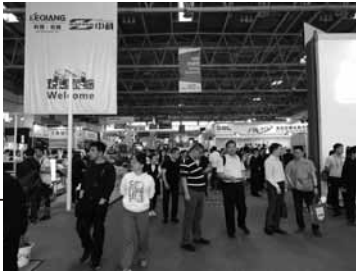
シトール社は、『品質とサービスの高さ』をコンセプトにアピール。4つの事業部が柱となり、ボックスライン（抜き関係）、プリントライン（RSP）、フォームライン（抜き型関連）、プロセスライン（測定機関連）の製品を展示した。

そのなかで、ドルツパにも出展した『シトールアルティメット』について、谷口社長は「日本では11月からの発売を予定している。耐久性と罫線品質の安定は大変重要で、最初から最後まで罫線形状が変わらないことが求められている。『シトールアルティメット』はそれを可能にする製品」。また、チャイナプリントに初出展した平盤抜用跳ね

出しゴム『シトールジェクトF』について「日本での発売はまだだが、日本市場に向けて実証テストを行っている」と説明した。

さらに、滞在期間中、中国のスーパーなども巡ったという松浦氏、神崎氏は、「チャイナプリントの会場はとても活気があった。ほとんどが中国国内からの来場者だが、ブースの前を通ると、積極的に声を掛けて売り込みをしてくるところが多くパワーを感じた。また、街中のスーパーを訪ねると、多くのブランドが並び、とにかく華やかで、綺麗に印刷されたパッケージや段ボール箱が並んでいた。

中国は、海外ブランドも数多く取り扱っているため、パッケージの作りや印刷など製品レベルが向上していると感じた」と印象を述べた。



会場のもよう

する。

フィンガーリフト付で、夏でもずれない接着面、面盤への糊残りもないなど、作業性も重視されている。

また、製品情報をQRコードで読み取り、3Dグラスを使って、立体で情報を見ることができるというユニークな展示に、来場者は注目した。

シートジェクト F



シートジェクト F は、①高品質なクロードセルタイプのごム。湿気を吸収しにくく、ウォータージェット加工後もほぼ乾いた状態が保てる。乾燥時間が短縮できる。さらに、クロードセルは打抜き加工中の紙粉などを吸着しないため、ごムの機能が損なわれず、跳ね出す力が長期間、一定に保たれる。

②メッシュゴムよりも平均で68%軽いごムで、取り扱いも楽

になり、負担軽減と作業効率のアップが図れる。

③硬さのバラツキが少ないごム(±0/マイナス5シヨア硬度A)

④打抜き時に必要な抜圧を40%以上低減できる。機械の摩擦やエネルギーコストの低減にもつながる。

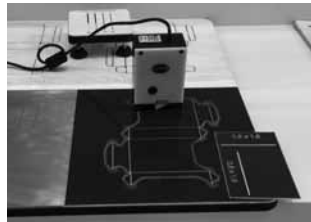
⑤サンプルカッターのカット速度が速く、カッター刃への負担も抑えられ、キレイな切り口に仕上がる。

⑥高速運転の打抜き機に対応。

⑦紫外線耐性があり、UVによる劣化・変色が緩やか。

⑧高さ7mm×幅860mm×長さ990mm

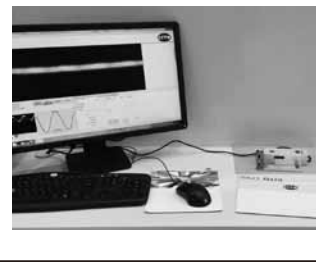
シートカウンター コントロール



CAD面版の溝精度を数値でとらえる非接触光学測定器。ベーク板、スチールカウンタープレートのどちらにも測定が可能。溝幅・溝深さ・溝底のRまたは角度を測定。操作が簡単。

スピーディーかつ正確な測定。測定結果をPDFでレポート作成ができる。

クリージー



罫線形状を確認・分析・データ化し、測定結果をより精度の高い品質管理に活用できる。

クリージーで可能な測定と画像分析は、①山折れの幅を測定、②内側層形状の対称性を確認できる。③山折れの高さを測定。④折れ筋の断面解析。⑤2本の折れ線を折る前後で比較できる。⑥最終的な箱の品質管理ができる。⑦統計データ・品質レポートが作成できる。

コルチェック



コルチェックは、段ボールのウォッシュボード・中芯形状罫線形状を画像確認・測定分析・数値をデータ化して品質管理を行う。ウォッシュボード現象の有無は段ボールの強度に影響するほか、フレキソ印刷時の段目移りの原因にもなるため、ウォッシュボードを把握することはとても重要。コルチェックは、連続画像の撮影とそれをつなぎ合わせた画像にする技術を使用し5つの高解像度画像を取り込み、長さ4cmの複合画像を作成することがウォッシュボードの数値化ができる。

ゴムカッター



長さが測れて、指定の長さで、角45度にカットできる。はさみで切るより、正確で簡単に切れるため、作業のスマート化が図れ、作業効率もアップできる。

(写真提供/有功社シート貿易株)